

がん・生殖医療連携会議

/Oncofertility Consortium JAPAN 2016 Meeting準備会議

平成28年度厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）
総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究

H27-がん対策-一般-005

班長：国立名古屋医療センター臨床研究センター長 堀部敬三先生

鹿児島のがん・生殖医療連携の現状について

竹内一浩

竹内レディースクリニック附設高度生殖医療センター



生殖小班

聖マリアンナ医科大学医学部
岐阜大学大学院医学系研究科
岡山大学大学院保健学研究科
長崎大学医学部附属病院
滋賀医科大学医学部
埼玉医科大学総合医療センター
岐阜大学大学院医学系研究科

・産婦人科学
・産科婦人科学分野
・生殖医学
・産婦人科、生殖内分泌学
・産婦人科学
・産婦人科学
・産科婦人科学分野

鈴木 直
古井 辰郎
中塚 幹也
北島 道夫
木村 文則
高井 泰
森重健一郎

当院における卵子凍結の経緯

- **2007年 未受精卵子凍結の基礎的研究**

Vitrification法(超急速ガラス化保存法)による卵子凍結の基礎的研究

日本A-PARTの臨床研究

日本A-PARTにおいて、血液疾患患者(白血病や悪性リンパ腫)に対する卵子凍結を日本産婦人科学会より承認を得て臨床研究開始

(2015年3月に臨床研究は終了)

- **2008年 医学的適応の卵子凍結**

院内倫理委員会を経て、日本産科婦人科学会へ申請後、登録

現在、不妊治療を含む医学的適応(担癌患者)の卵子凍結を27症例施行

- **2013年 社会的適応の卵子凍結**

同年11月、日本生殖医学会において健康な未婚女性が未来の妊娠に備えて卵子を凍結保存することを認めるガイドラインを正式に決定

翌年より社会的適応の卵子凍結が開始し、現在までに11症例の卵子凍結を施行

いつ採卵するか

乳癌

手術後、化学療法開始前
(遅くとも術後12週以内)

白血病

地固め療法の初めに、化学療法が始まってから合間をぬって寛解療法

当院における妊孕性温存 症例一覽①

＜医学的適応：卵子凍結＞ 因子：乳癌 14症例

名前	年齢	OPU数	M II 数	転機
N.Y	38	4	2	凍結継続中
		5	5	
T.S	39	8	4	凍結継続中
E.T	39	8	7	凍結継続中
N.M	44	5	4	婚姻⇒受精卵胚移植⇒妊娠(-)
S.A	35	14	14	凍結継続中
T.Y	36	6	4	凍結継続中
M.E	33	33	26	婚姻⇒受精卵胚移植⇒妊娠(+) AMH 治療前：6.85 治療後：0.05
E.Z	29	5	5	凍結継続中
K.A	41	9	8	凍結継続中
O.K	42	7	5	凍結継続中
S.S	33	12	8	凍結継続中
H.S	30	8	5	凍結継続中
O.E	35	30	27	凍結継続中
K.R	36	9	7	凍結継続中

当院における妊孕性温存 症例一覧②

＜医学的適応：卵子凍結＞ 因子：血液疾患・その他 10症例

名前	年齢	因子	OPU数	MⅡ数	転機
T.K	20	急性骨髄性白血病	14	11	凍結継続中
N.M	38	急性骨髄性白血病	7	4	凍結継続中
Y.J	18	急性骨髄性白血病	17	13	凍結継続中
S.K	36	急性リンパ性白血病	1	0	凍結継続中
T.A	30	急性リンパ性白血病	1	1	凍結継続中
			3	2	
N.A	22	急性リンパ性白血病	7	7	凍結継続中
M.R	32	ホジキンリンパ腫	10	6	凍結継続中
H.R	31	非ホジキンリンパ腫	35	23	凍結継続中
M.C	32	再発性多発軟骨炎	11	7	凍結継続中
Y.A	33	胃癌	4	3	凍結継続中

凍結卵子の保存期限条件（当院）

- 女性の年齢が45歳未満まで
（採卵実施は女性の年齢が40歳未満）
- 凍結者本人の死亡時は破棄
- 卵子の使用は婚姻が成立してからとする
- 子宮摘出術後は凍結の継続はしない

受精卵の場合

- 配偶者死亡時は破棄
- 離婚時は破棄

卵子凍結の課題

① 保存期間が長期にわたる

② 将来、起こり得るトラブル

- ・ 45歳を過ぎても卵子凍結の延長を強く希望
- ・ 未婚状態での妊娠を希望

③ 費用（助成金の有無）

・ 白血病：あり

・ 乳癌：なし

こうのとりのマリン基金

給付内容

- 未受精卵子の凍結保存にかかる採取・保存費用、採取のための交通費の一部。
- 採取した未受精卵子を使用して着床させるまでにかかる費用、そのための通院にかかる交通費の一部。
- 上限額 一人30万円。

こうのとりのマリン基金 全国骨髄バンク推進連絡協議会 より
<http://www.marow.or.jp/supports/post_53.html> (2016/4/28アクセス)

当院における連携施設

- 乳癌 : 相良病院 → ケースワーカーより
当院コーディネーターに連絡
 - かねこクリニック
 - 血液疾患 : 今村病院・分院
鹿児島医療センター
鹿児島大学病院
 - その他の悪性腫瘍 : 鹿児島大学病院
鹿児島厚生連病院
- 医師同士での連絡

鹿児島県における卵子、受精卵、精子凍結を実施している産婦人科施設

施設名	登録※ 施設	卵子 (未婚)	受精卵 (既婚)	精子
竹内レディースクリニック（姶良市）	○	○	○	○
鹿児島大学病院（鹿児島市）	—	○	○	○
松田ウイメンズクリニック（鹿児島市）	—	—	○	○
レディースクリニックあいいく（鹿児島市）	—	—	○	○

※ 医学的適応による未受精卵子および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する登録
(日本産科婦人科学会)

ネットワークの運営体制(1) [鹿児島県]

紹介先の主な施設	竹内レディースクリニック 他3施設
紹介方法	病診連携(TEL・FAX)、紹介状 医師間のメール など
がん診療施設からの 統一された情報提供書式	なし
県外からの紹介	まれ
妊孕性温存実施施設	紹介先と同一
ネットワーク運用資金	現状補助はないが行政に進言中
ネットワークHome Page ・開設資金	現状補助はないが行政に進言中

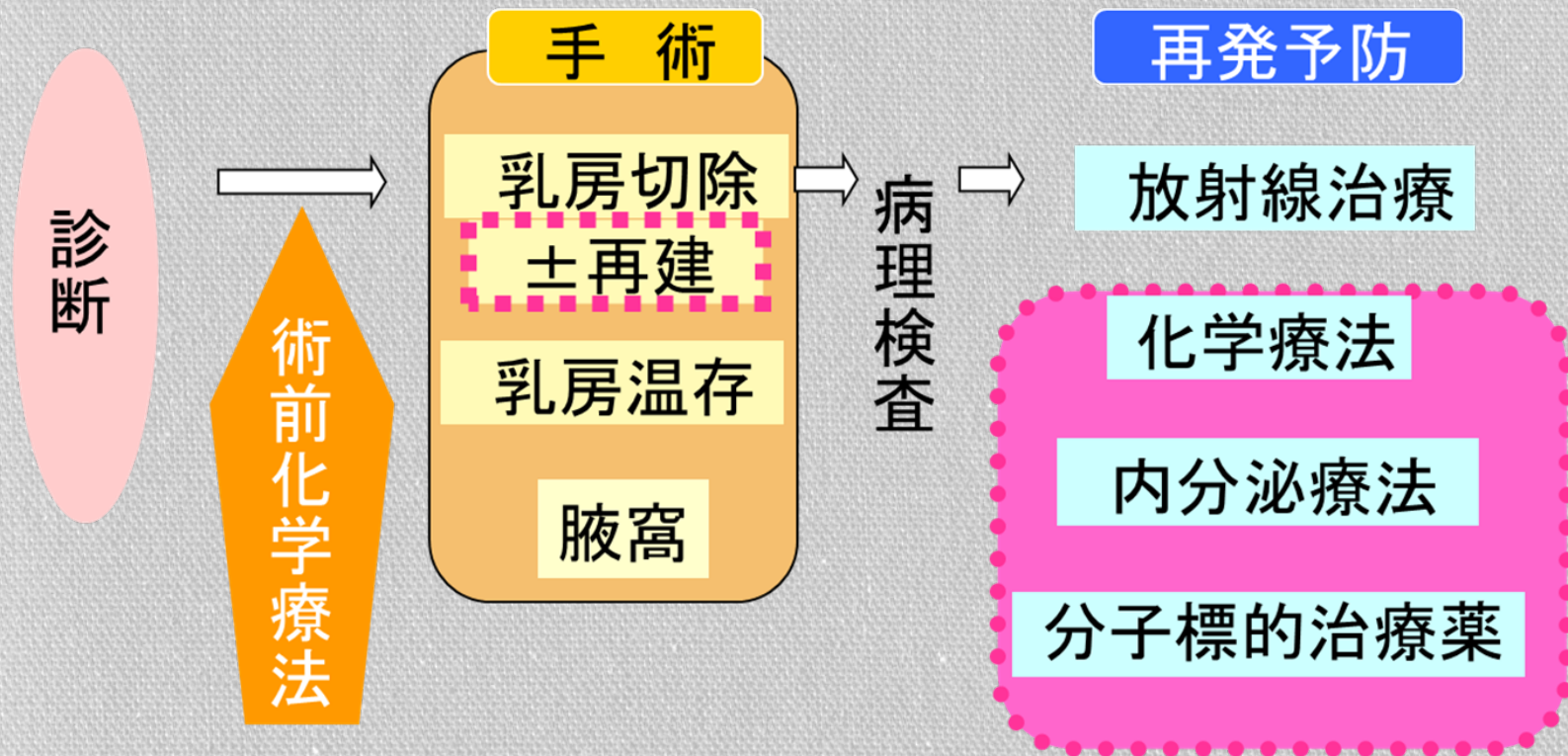
ネットワークの運営体制(2) [鹿児島県]

妊孕性温存に関する 情報提供内容	独自資料あり
症例の情報	各施設で管理
施設間の交流方法 (患者紹介以外)	定期的な研究会の開催
行政の関与	行政に進言中
ネットワークの特徴	ART施設が先導しているが、具体的な ネットワークは構築されていない
ネットワークの課題	

当院での妊孕性温存へのとりくみ

博愛会 相良病院
乳腺科 佐藤睦

乳癌の治療の流れ



・術前化学療法症例 ⇒なるべく早く始められるように。早急な対応が必要！

・手術先行症例 ⇒術後の薬物治療の開始タイミングが遅れないように。
(術後90日以内)

当院の妊孕性温存への流れ

いずれも乳癌治療医と看護師、ソーシャルワーカー等のスタッフとともに対応

- ① 基本的に乳癌告知の際、原則40代前半の方へ挙児希望の確認をする

※あらかじめ、問診票でパートナーの有無、出産歴、不妊治療歴等を確認

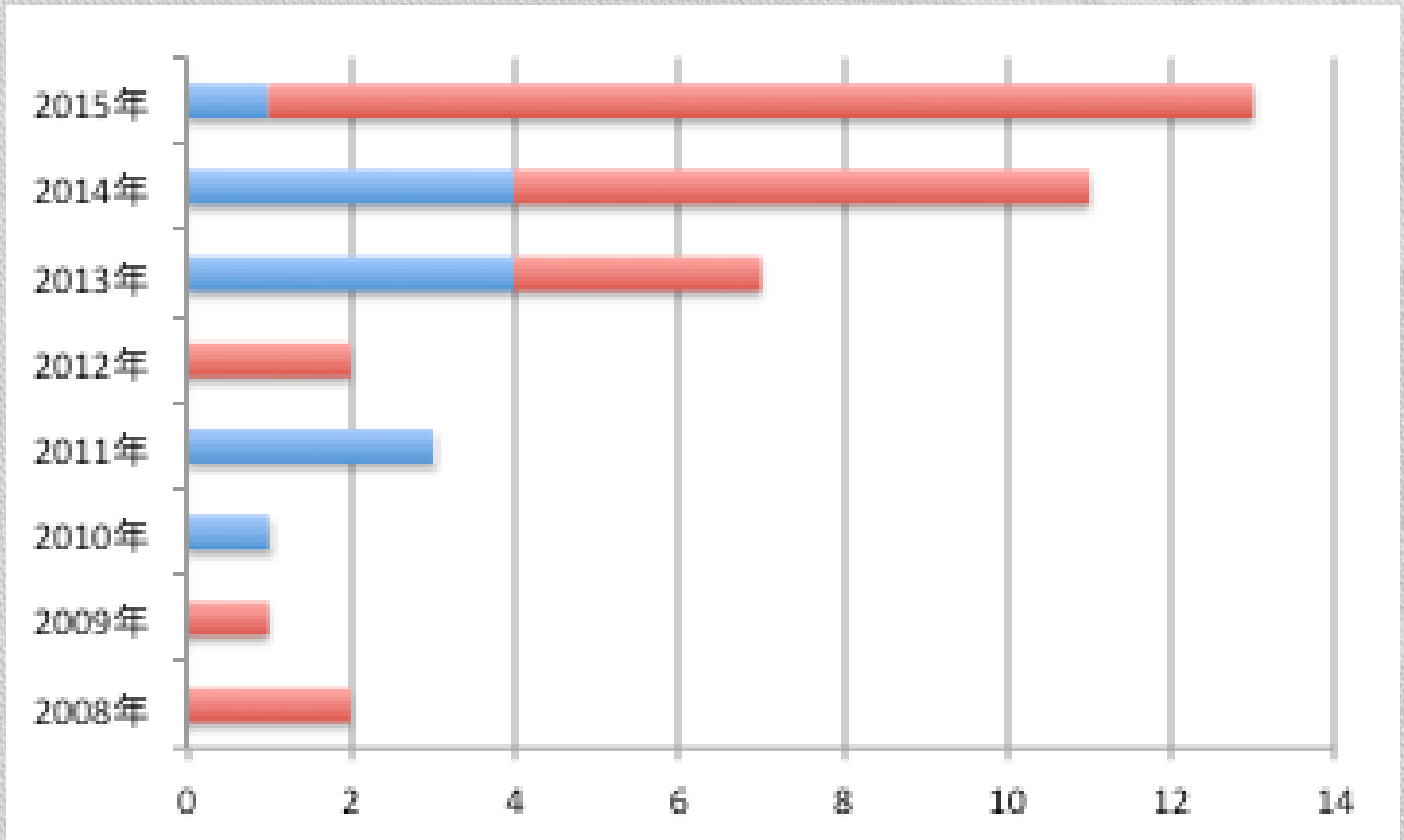
- ② 乳癌の治療方針とともに、それによる妊孕性への影響を説明

抗癌剤治療による閉経のリスク

長期ホルモン治療による原始卵胞への影響 等

- ③ 妊孕性温存の方法について提示
受精卵凍結 もしくは 卵子凍結
- ④ 術前化学療法症例等など治療を急ぐ方には特に早急に
連携の生殖医療専門機関を受診いただく

生殖医療機関への紹介数



* ■ : 妊孕性温存症例 28症例
(45歳未満は724例であり、その中で妊孕性温存を行ったのは3.8%)

問題点

- 妊娠許可のタイミングが確立していない
ホルモン陽性乳癌ではホルモン治療中止のタイミング
(POSITIVE試験進行中)
ホルモン陰性乳癌では術後何年で許可するか・・・
- がん治療医療機関と生殖医療機関での情報の共有が難しい
現在は診療情報提供書のやり取りのみ
⇒共通のデータベース等の構築が必要